

No.	⑫	分類	3-(2)-ア	資料名	仲良し活動	学年	6年	領域	道徳	2-(2)
-----	---	----	---------	-----	-------	----	----	----	----	-------

### 1 ねらい

- 年下の子を思いやり、年齢を超えた豊かな人間関係を作っていこうとする態度をもつ。

### 2 趣旨

- 高学年においては、他者と触れ合う機会を通して、相手の立場に立ち、思いやりの心をもって親切にする行為を積極的に行っていくことが大切である。
- 本資料では、縦割り班活動を否定的にとらえていた主人公が、低学年の児童の思いを知ることによって、その価値に気づき、積極的に頑張ろうとする姿を描いている。人間関係が同学年に限られがちな児童に、主人公の気持ちの変化を考えさせることで、高学年としての役割を自覚させ、年下の子に思いやりをもって接しようとする態度をもたせたい。

### 3 配慮事項

- 縦割り班活動がない学校では、登校班などの異年齢活動をもとに指導することが考えられる。

### 4 展開例

学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点
<p>1 高学年としての役割について考える。</p> <p style="text-align: center;">高学年としての役割には、どんなことがありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・行事の準備や後片付けをする。</li> <li>・低学年の世話をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の中で、高学年の児童が果たす役割について自由に発表させ、正直な感想を引き出したい。</li> </ul>
<p>2 資料を読んで「弘希」の心情について話し合う。</p> <p style="text-align: center;">「弘希」は どうして「え〜っ!」と声を出したのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ドッジボールを楽しみにしていたのに。</li> <li>・活躍をしようと思っていたのに。</li> </ul> <p style="text-align: center;">「弘希」は、どんな気持ちで「ふえおに」をしていたのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ああ、おもしろくない。</li> <li>・仲良し活動なんてなければいいのに。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動場の乾き具合をずっと気にしていた場面を参考にしながら、気持ちを理解させる。</li> <li>・男の子に手を振った時、特別な思いはなかったことをとらえさせる。</li> </ul>
<p>○ 彰子先生の話聞いたあとの気持ちを考える。</p> <p style="text-align: center;">笑顔で返事をする「弘希」はどんなことを考えていたのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あの子は楽しんでいたんだ。</li> <li>・縦割り班活動も大切なんだ。</li> <li>・今度からもっとがんばろう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が低学年の頃と大介を重ね合わせ、縦割り班活動が小さい子たちにとって、大きな楽しみであることと共に、その気持ちに応える責任が高学年にあることに気づいた弘希の心情に迫らせる。</li> </ul>
<p>3 自分の学校の低学年の子の気持ちを知る。</p> <p style="text-align: center;">みんなへのメッセージを紹介します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いつも遊んでくれてありがとう。</li> <li>・いつもとても楽しいです。</li> <li>・またいっしょに遊ぼうね。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・縦割り班やペア活動、登校班などで関わっている低学年の児童に事前に書いてもらった手紙を紹介し、高学年としての自覚をもたせ、年齢を越えたよい集団を作ろうという意欲を高めたい。</li> </ul>